

## 京都に市民活動を 寄付等で支える一般財団法人が誕生

本年3月、一般財団法人京都地域創造基金（京都市下京区）が設立された。きょうとNPOセンターの創立10周年を記念した取り組みで、市民から寄付を募り、その資金を地域のNPOに還流して、市民主体の豊かな地域づくりを目指すというもの。地域は地域の皆で支え合おうという活動の推進は、まさに寄付文化そのものへの仕掛けといえるだろう。

同財団は夏から秋に向けて公益財団法人化を予定し、広く一般にも寄付を募集していくという。各地でもこうした動きが着実に広がっていくことを期待したい。

（連絡先→同事務局 TEL 075-353-6354、HP <http://plus-social.jp/>）

## 米国・タイズ財団の支援活動

去る5月30日、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科主催で、アメリカ・タイズ財団の取り組みに関する公開講演会があった。

タイズ財団は一般市民からの小規模な寄付によって成り立つコミュニティ財団の1つで、中間支援組織としてNPO支援を盛んに行っていることで有名である。

財団の規模としては、スタッフ135名、資産は2億ドル（約190億円）で、アメリカ国内で100番目である。

特長的な点は、①寄付者（ドナーと呼ぶ）がやって来るのを待つのではなく、関心のある人に情報提供やアドバイスをを行うことによって育成をしていく。②新しいアイデアを持った人が活動を実現できるように、タイズ財団内の1プロジェクトとして立ち上げ、自立できるよう運営支援を行うなど。

社会背景や文化の違いがあり、そのまま比較することはできないが、広く寄付を集め、地域活動を推進するための中間支援団体の役割の重要性が改めて感じられた。

つとして、ふれあい助け合い活動をしている地域の  
の団体に目を向け、自分たちが暮らす地域の将来

を、寄付という形で共に考える、そんな社会づく  
りをぜひ皆で目指していきませんか？